

第513回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和2年10月7日(水) 午前11:00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名
○出席委員数 8名
○出席委員の氏名(敬称略・委員は五十音順)

委員長 林 新一郎

副委員長 渡辺 重久

委員 加藤 恵美子

委員 笹本 正治

委員 佐藤 裕一

委員 瀧川 浩

委員 武重 正史

委員 南澤 光弥

○放送事業者側出席者名

外山 衆司 (代表取締役社長)

太田 耕司 (取締役 報道制作担当)

飯嶋 憲彦 (取締役
編成・業務推進・放送番組審議会担当)

春原 晴久 (報道制作局長)

早川 英治 (編成局長)

浅輪 清 (編成局次長 兼番組考査部長
兼放送番組審議会事務局長)

北沢 輝久 (編成部長 兼視聴者室長)

東澤 鈴美 (報道制作局制作部)

4. 議題

(1) 番組審議

『 NBSフォーカス∞信州

クマとタマ ～軽井沢・ベアドッグの取り組み～ 』

令和2年6月26日（金）夜7時00分～7時57分放送

- (2) 視聴者対応報告（令和2年9月分）
- (3) 番組種別報告（令和2年4月～9月分）
- (4) その他

5. 議事概要

(1) 番組審議

- ・自然の大切さというのが伝わってきた良い番組だったと思う。
- ・ベアドッグとか、ハンドラーとか、チームピッキオの働きとか、こういった取り組みをされている方がいるということに対して新鮮な思いで見た。
- ・日本初のベアドッグ繁殖プロジェクトという、またとないタイミングを捉えて2年間しっかり取材されていた。
- ・実証データに基づいて熊の特性を良く知った上で、共存というのは人と住み分けるということが大事だということをお勉強させてもらった。
- ・「熊といかに共存していけるか、将来、私たちが地球上にある自然の中で生きていけるかどうか試されている」という発言が重く感じられて、考えさせられた。
- ・ピッキオの活動というのは365日24時間、維持管理をしている、データを取っているということで、私はインフラ企業として共感を覚えた。
- ・田中さんがタマと一緒に暮らし、寝食を共にしているという映像を見て、そこまで愛情を注ぐことによって、動物との信頼関係ができていくことに感動した。
- ・田中さんの使命感とか、眼力の高さとか、真摯な姿勢というものに、特殊な仕事であるにもかかわらずそこまで使命感を持ってやっている職業観に感銘を受けた。
- ・駆除した剥製の熊をしおりと名付けて命を無駄にしない学校教材にするあたりのピッキオの活動は、レベルの高い運営というのが視聴者にも伝わったと思う。
- ・ピッキオの活動は、これからの世界を占う共存共栄、持続可能な世界というのを最も象徴的に表している1つの団体なのではないかと思った。
- ・ピッキオの活動の素晴らしさをもっと訴求するためには、最近の熊による獣害とか、捕殺例とか、熊の社会的な影響などを紹介しても良かった。

- ・全国的な熊の被害とか熊の数がどうなっているかなどを出せば、ピッキオとか軽井沢の取り組みの特徴というのがはっきりしたと思う。
- ・費用と人の関係を考えた時にベアドッグの問題は根本的な解決策になっているのかということ強く思った。一番豊かな町である軽井沢町でしかできないのではないか。
- ・長野県がこれからどういう取り組みをしていくのかということも知りたいと思った。
- ・熊の猟犬と称するカレリアンベアドッグという犬種についての説明をもう少し聞きたかった。秋田犬や甲斐犬のような日本犬の猟犬ではベアドッグにならないのかという素朴な疑問も沸いた。
- ・番組全般を通じてカメラワークが素晴らしいと思った。至近距離から勢いのある撮り方になっていたので、非常に臨場感溢れて、自分がその現場にいるような映像だった。
- ・タイトルの文字そのものの工夫もあり、タマの夕が首輪のリードみたいなイラストも、凝った作りになっていた。
- ・「軽井沢・ベアドッグの取り組み」というサブタイトルはいただけない。もうちょっと一般受けするタイトルでも良かった。
- ・ベアドッグは良いことだと主張したいのか、人間と自然をどう考えたらいいのかということを主張したいのか、そこがちょっと見えなかった。

(2) 視聴者対応報告

資料に基づき、令和2年9月分の視聴者対応について編成局より報告を行った。

(3) 番組種別報告（令和2年4月から令和2年9月分）

資料に基づき、令和2年4月から9月までの番組種別について編成局より報告を行った。

(4) その他

10月の番組改編の主なポイントを説明した。

以上